

宮古の風

~新しい風は東から~



先日、宮古サーモンハーフマラソンに参加し、子どもと走ってきました。参加人数と出場者の皆さんとの熱気に圧倒されました。2kmしか走っていないにも関わらず、翌日激しい筋肉痛に…。60(ロクマル)プラスプロジェクトを子どもと実践し、体力をつけてまいりたいと思います。

文責:平澤 優

管内小・中学校研究主任研修会

データを正しく判断するために

「平均点」で、子どもの姿をどこまで捉えられるか?

目標: 全国学調正答率を上げる→2%以上向上 一問題の難易度が下がれば簡単に達成

目標: 全国学調正答率で県の平均を超える (平均 本校50%, 県55%)

宮古教育事務所の
学校の平均的な
学級の人数→18名

全員が50点となる集団の中に
たった一人90点となる
その一人が欠席すると…
平均は2.2点下がる

全員が60点となる集団の中に
たった一人10点しか取れない子がいる
平均は2.8点下がる

平均点で集団の良し悪しを判断して良いか?

②子どもの力を的確に測り、確実に向上につなげるには?

「肯定解答」は、子どもの姿をどこまで捉えられるか?

「授業中、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思いますか。」

目標→積極肯定解答10%以上増加 目標→肯定解答50%以上達成

積極肯定25% 肯定15% 否定35% 消極否定25%

↓コレは目標達成ですか?

パターンA 積極肯定40% 肯定15% 否定5% 消極否定40%

パターンB 積極肯定36% 肯定17% 否定12% 消極否定28%

②子どもの力を的確に測り、確実に向上につなげるには?

学力調査は子どもの学力の「一部」を捉えている

子どもの「表現する力を高めたい!」



国語→「書くこと」の問題で測る 4問/24問

算数→「記述・説明」の問題で測る 4問/24問

質問紙→「自分の考えを理由がわかるように気を付ける」

「言葉や数、式を使ってわけや求め方を書く」

の項目で測る 2問/50問

育みたい力

限られた問題や項目で、大きな力を判断して良いか?

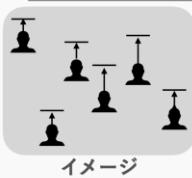
測っている力

②子どもの力を的確に測り、確実に向上につなげるには?

「数字」は見取りの客観性を増す。でも数字の見方に注意が必要

「そもそも、私たちは何をねらっているのか?」に立ち返る

- ・誰一人取り残さない(下方の格差を生み出さない)こと
- ・全員が“少しでも”, “成長し続ける”こと
- ・偶然などではなく, “意図的に”向上させること



□□の指導によって
着実に子どもたちの
○○の力が伸ばせる!

②子どもの力を的確に測り、確実に向上につなげるには?

11月12日(水)に研究主任研が行われました。

講義・演習では、児童生徒の実態を的確に捉えるための「諸調査の見方」について紹介させていただきました。平均点、肯定解答、一部の質問項目や設問だけで集団を捉えることは難しい側面があるため、県比偏差値、標準偏差、有意差などの数値を活用したり、育成を目指す資質・能力に特化した質問紙調査を用いたりすることで、児童生徒の見取りの解像度が上がる可能性があることを紹介させていただきました。学校によっては、時間が限られている中で校内研究を推進しなければならないことも予想されるため、宮古教育事務所学力向上担当で資質・能力の分析のお手伝いをさせていただきます。遠慮なくご連絡いただけますと幸いです。

諸調査の結果については、「なぜその数値が低い傾向にあるのか」という根本的な原因を探ること、その原因によっては学年段階を遡って基本的な計算力・読解力、思考力の基礎等の資質・能力を系統的に育成する実践例も紹介させていただきました。

また、三つの資質・能力はそれぞれ性質があり、知識及び技能は「習得」、思考力・判断力・表現力等は「育成」、学びに向かう力、人間性等は「涵養」とされています。例えば「粘り強さ」や「自己調整の力」を研究主題にしている場合、数ヶ月の短期スパンでは成果が現れにくいため、長期で見取っていく必要があることについて紹介しました。逆に知識及び技能、思考力・判断力・表現力等(いわゆる認知能力)については、確かな学力育成プランを活用しながら学期スパンで短期集中的にCAPDサイクルを回すこと、効果的に育成できることについても触れさせていただきました。

校内研を進める上では、学校の研究テーマによって「児童生徒が将来どのような大人になって欲しいか(校内研究の目的)」「研究を終えたときに児童生徒がどのような姿になっていると良いか(育成を目指す資質・能力)※」「育成するために教科・領域・教員としてどのような教育活動を展開していくか(重点的な手立て)」をそれぞれの先生方が明確にもっていること、※については、同じベクトルになっていることで組織的な取り組みが実現しやすいことも共有させていただきました。



説明の時間では、津軽石中学校と岩泉中学校の事例をもとに、家庭学習と連動させた資質・能力向上の在り方、組織的に自己調整の力を高め、生徒の資質・能力を詳しく分析する方法について共有しました。

また、年間の研究スケジュールの例、授業者の授業改善を効果的に促す校内研究会の次第例などについても、ご紹介させていただきました（右のQRコードから資料ダウンロード可）。

その後、協議の時間では、2人または3人グループで「架空の学校の校内研究計画を立てよう」のテーマでポスターセッションを行いました。



講義・演習資料

さすがは各校のブレーンとして活躍されている先生方とあって、講義・演習・説明で得た情報を踏まえ、これまでのご自身の研究推進の改善点や成果をうまく省察しながら、理想的かつ現実的に可能な校内研究計画を立てていらっしゃいました。特に、児童生徒の実態を的確に把握することの必要性、校内の先生方を巻き込み組織的に研究を進めていく視点を大切にしながら協議されていることが窺えました。

地区別体力向上担当者研修会

9月29日（月）、管内小学校から体力向上担当者1名悉皆参加で地区別体力向上担当者研修会を開催しました。はじめに、岩手県教育委員会事務局保健体育課 柴田 尚生 主任指導主事より、「本県の体力向上の現状と取組の方向性について」の説明がありました。次に、熊本大学教育学部 末永 祐介 准教授より「学校全体で取り組む体力向上に関するマネジメントの在り方」と題して講義を頂きました。最後に、宮古管内の体力の状況について共有し、「健やかな体を育むための環境づくり」について協議を行いました。



【末永先生のお話】

- ・「運動実施時間の増加」=「スポーツ実施時間の増加」ではない。
- ・日常生活を「体力の向上」の視点で見直すことで、思いがけないチャンスがある。
- ・学校にいる間に様々な動きを経験させたい。
(思わず動きたくなる仕掛け)
- ・体力向上の取組→「遊ぶ」ための安全を学ぶ機会ととらえる。



地区別授業改善研修会（保健分野）

11月17日（月）に、宮古市立崎山中学校を会場に、地区別授業改善研修会を開催しました。今年度は「中学校保健分野の授業改善」をねらいとし、授業者の宮古市立崎山中学校 船越 祐太郎 教諭、支援員の宮古市立第二中学校 佐藤 郁実 教諭、宮古市立宮古西中学校 小川 健斗 教諭の3名の先生方にご尽力いただきました。



「生徒自らが課題を発見できるような場面や課題を解決する学習活動を意図的に位置づける単元構成について」「対話によって自分の考えなどを深めたりする場面の設定」などを視点として授業づくりを行いました。当日は、ICT等を活用しながら、考えたことを交流するなどして、考えを深める生徒の姿がたくさん見られました。